

第 42 回 企業活性化研究分科会・議事録

< 第 42 回 2011 年 9 月 10 日（土）時間：13：30～16：30 於：専修大学（神田校舎） >

参加者：井端、大野、木村、小林、齋藤、柴山、菅原、杉本、高市、千葉、星野、宮川、山本、依田（14 名）

1. テーマ（1）：『“Learning the wrong lessons from history: Underestimating strategic change in business turnarounds” by Andrew M. Wild』

についての翻訳および検討

- ・報告者：杉本敦彦
- ・配布資料：6 枚

2. テーマ（2）：粉飾企業の分析

- ・報告者：井端和男
- ・配布資料：5 枚
- ・報告内容の要旨

本報告は、SBR 株式会社（以下、「同社」）の粉飾について分析したものである。同社は平成 9 年 6 月にオフィスオートメーション機器及び公衆電話の販売を目的に設立されたが現在では、金融支援サービス等を中心としたソリューション事業を中心とする事業形態へ転換している。

本分析では、訂正後の財務数値の推移を基に、回転期間、リスク対象額の分析を試みた。本分析によれば、売上増加に伴い営業資産の回転期間が低下していることから、実態を伴わない売上計上額であると推察した。加えて、同社の不正行為・不適切な会計処理は、営業立替金事業に、従業員を不正行為などに向かわせる誘因があると考察した。

3. テーマ（3）：粉飾企業の分析

- ・報告者：齋藤幸雄
- ・配布資料：15 枚
- ・報告内容の要旨

本報告は、株式会社アイロム（以下、「同社」）の粉飾について分析したものである。同社は医療品の臨床試験の受託、仲介を目的として設立された。同社の粉飾は受託内容に対する適正な売上金額の不計上、売上債権回収原資の購入設備への付け替え、売上計上時期の操作、貸倒引当金の不計上などが発覚し、同社は訂正報告書を提出した。

本分析は、訂正前の財務数値及び財務比率の推移から不適切な会計処理の推定を試みた各財務数値の回転期間の推移をみると、売上債権の回転期間に急激な上昇がみられるなど異常値が示された。そのため売上債権の増加要因を詳細に分析した。その結果、売上債権が営業貸付金に振り替えられていた可能性を示唆した。

（文責：小林宗一郎・柴山祥明）